

令和6年度 学校評価結果

学校法人 高松学園
幼保連携型認定こども園 慈光幼稚園

昨今の社会情勢の急激な変化により、園を取り巻く状況も大きく変わり大変な時期を迎えております。しかし、お陰様で園児の保護者をはじめ、地域の皆様のご協力をいただきながら、今年度も無事、年度末を迎えることができました。改めて皆様に心より御礼申し上げます。

2月に、保護者アンケート結果と教職員の自己評価結果等の集計を基に、学校関係者評価委員の皆様からご意見をいただきました。ここに令和6年度の学校評価結果を公表致します。

1. 教育及び保育の精神

本園は、認定こども園法及び子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）、児童福祉法（昭和22年法律第164号）に基づいて、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての教育並びに保育を一体的に行い、子どもの健やかな成長が図れるよう適当な環境を与えてその情操陶冶を行い宗教的萌芽を啓培し、以ってその心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育て支援をすることを目的とし、次に示す事項を重視して教育及び保育を行う。

- (1) 仏教精神を根底において、ともに育つ保育を行う。
- (2) のびやかに自己を發揮する保育を大切にする。
- (3) こどもが自ら環境にかかわってつくりだす遊びを保育の中心におく。
- (4) 教育・保育に関する専門性を生かした保護者及び地域等への子育て支援を行う。

2. 教育及び保育の目標

本園は、乳幼児期における教育及び保育が、生涯にわたる人間形成の基礎、生きる力の基礎を培うものであることを踏まえ、一人ひとりのこどもが、感謝の念を持ち、生きる喜びを得られるよう、認定こども園法第9条に示された次に掲げる目標の達成に努める。

- (1) 健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。
- (2) 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。
- (3) 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。
- (4) 日常の会話や絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。
- (5) 音楽や身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと。
- (6) 快適な生活環境の実現及び子どもと保育教諭との信頼関係の構築を通じて、心身の健康の確保及び増進を図ること。

3. 重点目標

- I、生活や遊びの中で、様々な体験を通して「心情」「意欲」「態度」を培い、園児一人一人がのびやかに自己を發揮していく姿を大切にする。
- II、保護者と保育教諭等、或いは地域社会と園が互いに連携し、協働の精神をもってこどもたち

の教育・保育を行うようとする。

III、保育教諭の資質及び専門性の向上を図る。

4、自己評価項目の達成及び取り組状況

分野	項目評価	評価	取り組み状況
園の管理	教育・保育目標の周知	A	<p>昨年度より3歳以上児保護者に配信する「〇月の保育」(月のカリキュラム)のねらいにどのような育ちに繋がるのか、「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」のピクトグラムを表示するようにした。ピクトグラムでより分かりやすくなつたことで、教育・保育の理解がされやすくなつたと思われる。</p> <p>年度当初の職員会で「教育及び保育の精神」と「教育及び保育の目標」について、職員間で確認を行う機会を設けたことで、共通理解を促すことができた。来年以降も継続的に行っていくようする。</p>
	危機管理体制の整備	B	<p>施設内、園庭の環境全般の点検を行ってはいるが、使用状況や使用年齢によって危険度は異なるため、今後も各クラス・学年の職員で使用方法を事前によく検討する。3歳以上児については、自分で危険回避することも学んでいくことが必要と考え、遊具の使い方など園児と一緒にルールを決めるなどすることもある。今後もこのような安全教育を大事に考えていきたい。</p> <p>園外保育実施前には、下見を十分に行い事故防止に努めている。また、園外保育後には危険箇所・工事箇所などICT業務システムにて園内で周知し情報共有するようしている。今後も継続していく。</p> <p>今年度も避難訓練は計画的に行い、特に火災の発生場所や活動している場所によつて避難経路が変わることを想定して職員自身の避難訓練としても重視してきた。各クラス・学年で、職員がどのように行動すべきか検討して訓練を行つてはいるが、想定外の状況で如何に臨機応変に動けるかが重要だ。職員へも予告なしで行う訓練後には、反省・評価を十分に行い非常に備えたい。保護者の方々へは、クラスだよりやホームページに様子を掲載し見ていただくことで周知していきたい。</p> <p>午前中は用務員が門付近で作業をしていることから、西門を閉めていないことが多い。不審者侵入防止のために、午前中も9時以降は西門を閉めるように努める。</p>
	家庭、地域、情報発信機関への	A	<p>園で発熱やケガなどをした場合は、養護教諭と協力して処置や保護者への連絡を行つてはいる。万が一、ケガが発生した場合は、保護者の心情を慮り早めに電話連絡するように努めている。低年齢のクラスで発生しやすい噛みつきや引っ搔きがあつた場合は、双方の保護者に報告し謝罪しているが、園で起きたことは園の責任であることをご理解いただけるよう努めたい。</p> <p>家庭との連携について、バス利用の保護者の方とは連絡帳か電話でのやりとりのみとなってしまうことから、今後もより一層の配慮が必要である。</p> <p>仏教行事・七夕まつりなど、地域の方にお越しいただき園児と一緒に楽しんでいただいている。もちつきでは、年長児が小型鏡餅の作り方をお教えいただくことが恒例となっており、園児にとって有り難い機会となっている。</p> <p>園のホームページについては、ひと月に複数回園児の様子や園情報を掲載している。保護者の方にもご覧いただけるよう園だよりでお伝えしたり、外部の方へお送りする通知にQRコードを掲載したりするなど工夫しているところであるが、更にアクセス数を増やす努力をしていく。</p>

	子育て支援	A	<p>園内部での子育て支援としては、日々の保護者との関わりを通して、育児への困り事や悩みに真摯に耳を傾ける努力を各職員が心掛けているところである。また、子育て相談窓口の利用や必要に応じた懇談の機会の確保などにも努めているところである。今後も一人一人の保護者との良好な関係性を築き、些細なことでも相談できる雰囲気作りを行っていく。</p> <p>今年度から第二子以降が2ヶ月～6(8)ヶ月の乳児を持つ母子のためのBP2プログラム(ベビープログラム2)を実施し、3グループ行い延べ24組の参加があった。母親の心の負担軽減や母子のよりよい関わりについて学んでいただく機会にとできたと思われる。園外からの参加も計6組あり、地域の子育て支援にも繋げられた。今後は1部の保護者だけに限らず、全ての保護者対象にBP3プログラムの実施に向けて準備していきたい。</p> <p>未就園児親子登園を今年度から参加費無料、参加者枠を満2歳からとしたことで、昨年度より2倍程登録者が増えた。遊び場所の提供、仲間づくり、子育て相談などの子育て支援の要素を含めて園での遊びや活動を親子で楽しんでいただけるクラスとなっている。別の園へ入園される方も含まれるが、地域の方への子育て支援として大事に考えていきたい。</p> <p>ここ2,3年で2・3号保育標準時間認定の園児が増加した。夕方の延長保育を利用し長時間保育を受ける園児が増えている。延長保育の在り方など、安全な生活を保障するための手立てを検討していく必要がある。</p>
教育活動	教育課程・指導計画の共通理解	A	<p>温暖化の影響により園での活動への影響が出てきており、指導計画の見直しが必要な時期に来ている。来年度行うと共に、職員間での共通理解を図っていく。</p> <p>保護者へは、学年だより等を通じて月毎のカリキュラムを伝えている。「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」のピクトグラムを添えることで、ねらいがより理解していただけるようになった。今年度は公開保育を行うことで、外部に向けて自園の教育・保育を見ていただく機会を得られ、様々な目で自園の教育・保育に意見や感想をいただけたことは大変貴重だった。今後も幼児教育の特徴である「遊びを通して総合的な育ちを促す」ことを、具体的な事例を挙げて分かりやすく園内外に発信することも大切に考えていきたい。</p>
	な乳幼児理解・援助段階に即した適切	A	<p>今年度は信州幼児教育支援センター主催フィールド研修の実践園となったことから、幼児教育における「教材研究」に関する研究を行ってきた。その時々の教材が、一人一人の園児の「やりたい」という思いを支えるものとなるかという視点をもち研究を行ったことで、今までとは異なる視点から園児の発達に目を向けることができ、より幼児理解や教育・保育の質の向上を図ることができた。乳幼児期は同年齢であっても一人一人の発達にはばらつきがあり、個々への異なる援助が不可欠である。一人一人の園児を発達の側面だけでなく、内面を理解することを今後も大切にしながら、職員間で協力しながら園児それぞれに適切な援助を行っていく。</p>
	小円学校など連携	B	<p>これまで同様、入学者のある小学校とは4月から連携を取っており、卒業生の参観や担任教員との懇談、小学校教員の園児参観、入学児に関する伝達など回数を重ねて円滑な接続ができるよう取り組んでいる。ケースによっては飯田市教育委員会や入学先の小学校と連携して、保護者の意向を聞きながら受け入れ体制を整えもらうなどの対応をしている。これからも年長保護者への丁寧な説明を行い、少人数で入学することへの不安の軽減を行っていきたい。</p> <p>近隣小学校3校の校長先生が運動会を見にきてくださった。また、浜井場小学校の校長先生が公開保育に来園され、職員へ様子を伝えてくださったり、3年生と年長の交流を設けてくださいたりするなど、交流が再開している。今後も円滑な接続に向けて交流を継続していくようお願いしていきたい。</p>

	職員の資質向上	A	<p>フィールド研修の実践園となり、研究・公開保育の機会をいただけたことで、同僚間で教育・保育を深く掘り下げる通じて職員の資質が向上し教育・保育の質の向上にもつながった。園内だけにとどまらず、外部講師や他園職員に保育参観・意見交換などをしていただけたことも自園の教育・保育を客観的に省みることもできた。</p> <p>職員数が増えている現状を踏まえ、新たな知識を得る機会を全ての職員に保障し、継続的に学べるような取り組みをしていきたい。今年度は保育業務システムに組み込まれたリモート研修を呼びかけた。</p>
--	---------	---	--

5. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>研究会を通して資質向上を図ることで、職員の自信ややりがいに通じる結果にはなっている。今後も学びの機会を保障していきたい。</p> <p>3年程前より働き方改革に着手している。常勤職員の負担軽減のために、ICT システムの活用により雑務を減らしたり、保護者の方のご理解をいただき土曜保育の振替休日の取得させていただいたりしているところである。しかし、まだまだ業務の効率化や軽減が必要な状態である。教育・保育の質を第一に考えつつ、業務を分担したり整理したりするなど、今後も継続して働きやすい職場づくりに努めていく。</p>

6. 今後取り組むべき課題（すでに実施し始めていることを含む）

課題	具体的な取り組方法
解説 即発達乳幼児段階支援に切に	保護者の方へ向けた特別支援(発達障がいなどのある園児への支援)教育についての説明が不十分とのアンケート結果が毎年出ている。年度当初の保護者説明会での説明内容に工夫が必要である。また、個々に対する個別の支援の説明のみでなく、インクルーシブ保育についての園の考え方などを伝えていくように努め、保護者を巻き込み園が一体となって全園児のよりよい成長をバックアップできるよう促していくようとする。

7. 学校関係者評価委員の評価

学校関係者評価委員の多くから「P T A クラス委員の負担軽減など、昨年度挙がってきた課題に取り組み改善が見られるとともに、保護者アンケートの結果も上向きで良好な園の運営が成されている」と「概ねA」と評価され、「皆それぞれ特性が違い、園はそれぞれの違いを受け入れながら皆が一緒に育っていく場所であるということを保護者・地域に発信していくことが大切」とのご助言を頂いた。

保護者アンケートで出されたご指摘・ご意見を十分に理解しつつ、今後も一人一人の園児や保護者にとって何が大切なを見極めながら、園の進むべき方向を決定していくことを期待された。

8. 財政状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

※4, 5 の評価基準

A	達成されている	C	取り組まれているが成果が十分でない
B	概ね達成されている	D	取り組みが感じられない